

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創設 119 年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6 年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）を育成することをミッションとし、未来に向けた挑戦を始める。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 45分×7限授業（35単位時間（45分授業））により、確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。

ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。

エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度を平成31年度は80%以上（平成30年度80%）をめざし、その後も80%以上を維持する。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取り組み

(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを開発し、地域をフィールドとして課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。

イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。

※（生徒向け）学校教育自己診断における「探究活動の満足度」を平成31年度は80%以上（平成30年度は81%）をめざし、その後も80%以上を維持する。

また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度70%をめざし、3年後には75%をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度90%（平成30年度は88%）をめざし、その後も90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（台湾、オーストラリア、タイ等）の充実

イ ・台湾姉妹校や、高校との連携によるオーストラリア姉妹校との交流の継続

・グローバル人材の育成に向けた海外研修

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通じたグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」90%（平成30年度は89%）をめざし、その後も90%以上を維持する。

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度90%（平成30年度は93%）をめざし、その後は90%以上を維持する。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進

イ 安全・安心な学校づくり

ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度90%以上（平成30年度は86%）をめざし、その後も90%以上を維持する。また（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成30年度93%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底

イ 校務の見直しによる業務の軽減化

ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>()内は昨年度</p> <p>1. 学校満足度</p> <p>*生徒・保護者ともに満足は高い。</p> <p><主な結果></p> <p>(生徒)「富田林中学校に入学してよかった」96% (86)</p> <p>(保護者)「富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」94% (93)</p> <p>2. 学力の育成</p> <p>*授業改善にむけた取組みが進んだことがわかる。(生徒回答)</p> <p>*保護者は学力の育成に対する取組みに概ね満足。</p> <p>*教員の授業内容やICTを活用するなどの工夫については、概ね良好。</p> <p>*必要な宿題の量と生徒の学習状況のバランスの調整が引き続き必要。</p> <p><主な結果></p> <p>① 授業</p> <p>(生徒)「わかりやすく興味を持てる授業」86% (80)</p> <p>「内容を深く考えさせる授業」88% (80)</p> <p>「ICT 機器活用」97% (97)</p> <p>(保護者)「学校の学習活動への取組に満足」87% (84)</p> <p>(教員)『『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業』89% (57)</p> <p>「ICT 機器活用」89% (86)</p> <p>「授業方法等を検討する機会」56% (64)</p> <p>② 家庭学習</p> <p>(生徒)「宿題の量は適切である」45% (38)</p> <p>3. 学校生活</p> <p>*生徒指導全般に生徒の捉えが好転。</p> <p>生徒が学校生活について主体的に考え、生徒同士が高め合い認め合える学校づくりを推進していく。また、教員が生徒理解に基づいた指導方法の習得及び改善を進めることが引き続き必要。</p> <p><主な結果></p> <p>(生徒)「生活指導に満足」81% (77)「いじめ対応に満足」87% (72)</p> <p>「悩みを相談できる先生」54% (47)</p> <p>「悩みを相談できる友人等」83% (76)</p> <p>4. 特色ある取組、豊かな感性</p> <p>*国際交流、海外研修などの本校独自の取組及び学校行事に関して生徒・保護者両者は非常に満足。総合的な学習の時間などの探究活動については、引き続き指導内容及び指導方法の研究が必要。</p> <p><主な結果></p> <p>① 国際教育</p> <p>(生徒)「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」93% (89)</p> <p>(保護者)「国際交流満足度」96% (95)</p> <p>② 探究活動</p> <p>(生徒)</p> <p>「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」83% (81)</p> <p>(教員)</p> <p>「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」78% (79)</p> <p>③ 学校行事</p> <p>(生徒)「学校行事への満足度」89% (88)</p> <p>(保護者)「学校行事への満足度」89% (90)</p> <p>5. 情報発信</p> <p>*学校からの情報発信については概ね良好であるが工夫が必要。</p> <p><主な結果></p> <p>(生徒)「情報発信に満足」86% (89)</p> <p>(保護者)「情報発信に満足」89% (93)</p> <p>(生徒)「学校からの連絡を保護者に伝えている」83% (78)</p> <p>(保護者)「学校からの連絡を子ども通じて把握」63% (63)</p> <p>2 学校経営</p> <p>*学校経営方針は明確化されている。</p> <p>*中・高教員間連携については3年目を迎え連携が本格化。連携方法の工夫改善が必要</p> <p>*中高一貫校の中学校長としての役割を明確にし、経営を実行。</p> <p><主な結果></p> <p>(保護者)「教育理念や学校運営方針の表明」90% (90)</p> <p>(教員)「教育理念や学校運営方針の表明」89% (86)</p> <p>(保護者)「新しい教育活動への対応」91% (93)</p> <p>(教員)「分掌、教員間、中・高教員間の連携」17% (29)</p>	<p>第1回(5月17日)</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 育成したい生徒像を中高で共有すべきだ。中高の連携、つまり同じ目標を設定することが全てだ。 富中高では組織的に教員の意識を高める工夫はあるのか。→管理職や首席を含んだ「中高一貫教育推進委員会」で方針や方策を定め、それをさまざまな部署で共有・実行している。今年度は各部署の中高間の連携を強めたい。 <p>○高校の令和2年度以降の制服に係る検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育目標と制服制度がどう結びついているかを説明できるようにすべきである。 制服の常時着用について検討する際には、自由度、TP0、安全面、学校の管理面、LGBTなどいくつかの視点がある。どんな視点で考えていくのかをもう一度整理して話し合うべきである。 LGBTについては当事者の話・要望を聞くことも大事である。富高の今の服装規定であれば当事者は居心地がいいのではないかな。 <p>第2回(11月29日)</p> <p>○高校の制服制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長が生徒たちに、富高の制服制度の歴史について伝えたい。教員と生徒会の間での協議を経て、制服の着用については現状維持と決定したが、現在の制度を作り上げた先輩たちの精神を今の生徒たちが継承できたのはよかった。 この伝統を引き継いでほしい。 <p>○中学の制服制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな意見を聞きながら進めていきたい。LGBTの問題に関しては、発達段階によって違ってくると思うので、専門家の意見も聞きながら進めてほしい。 中学校段階では制服を着ることによって学ぶこともあるだろうし、高校になったら何が変わり、何が自由になっていくのかということの問題提起しながら、教師側が主導することも大事である。 <p>○中学の探究活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域フォーラム」だけでなく、地域の人たちがもっと関わりやすいハードルの低い取組みがあればよい。 企業などとのやり取りを先生方がやると大変なので、地域の方が間に入れば、負担の量も減らすことができる。せっかくコミュニティ・スクールになっているのだから、委員に参画してもらいたい。 <p>第3回(2月21日)</p> <p>○今年度の学校による取組みの自己評価を踏まえた学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談できる先生の数値が低い。 卒業生が地域に対してどうフィードバックしていくかが大切である。 生徒の学力等、実態を把握することを念頭に置かなければならない。 <p>○次年度の学校運営の基本的な方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「令和2年度学校経営計画」を承認。 来年度の課題は、中進生と高進生との融合である。 <p>○本協議会の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会は意思決定機関で、情報の共有はできている。 PDCA サイクルのDが不十分。協働する時間があれば協議会での話し合いもより深くできる。 生徒の様子をもっと見られるように、フレキシブルに少人数でもいいから集まりたい。 地域との橋渡しで貢献したい。

府立富田林中学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>ア・45分×7限授業(中学校では週35単位時間)により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとに「アクティブ・ラーニング」の取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <p>・年に2回の中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。</p> <p>・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。</p> <p>・ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。</p> <p>ウ・毎朝始業前に10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。</p> <p>・オールイングリッシュで2日間を過ごす「イングリッシュキャンプ」を1・2年生で実施する。</p> <p>・中学1・2年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。</p> <p>エ・家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断における授業満足度を平成31年度は80%以上(平成30年度は80%)をめざす。</p> <p>イ・(教員向け)学校教育自己診断「「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を意識して授業をしている。」70%以上(平成30年度57%)をめざす。</p> <p>授業改革推進チームに中学教員を授業改革メンバーとして位置づける。</p> <p>・教科研修期間を設け、すべての教科で授業研究が実施できたか。また、年に2回以上の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。</p> <p>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。</p> <p>・ICT機器を活用した授業ができたか。(教員向け)学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」85%以上をめざす。(平成30年度86%)</p> <p>ウ・「モーニング・イングリッシュタイム」を通年で実施できたか。</p> <p>・「イングリッシュキャンプ」を実施できたか。</p> <p>・1・2学年全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その技能別結果を分析できたか。</p> <p>・上記の取組み結果を総合的に指導方法の工夫改善につなぐことができたか。</p> <p>エ・(生徒向け)学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」70%をめざす。(平成30年度63%)</p>	<p>ア・(生徒)授業満足度86%(H30 80%) (◎)</p> <p>イ・(教員)「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業89%(H30 57%) (◎) 授業改革推進チームに中学教員を授業改革推進リーダーとして位置づけた。(◎)</p> <p>・教科研修期間を設け、全教科で授業研究を実施。(◎)</p> <p>・地域公開授業を開催(府内小中高参加)その際、授業研究を実践(5教科)(◎)</p> <p>・2回の「授業アンケート」を実施し、授業改善シートを作成するとともに、各教科での深い学びをテーマとした授業改善をすすめた。(◎)</p> <p>・(教員)ICT機器を活用89%(H30 86%) (◎)</p> <p>ウ・「モーニング・イングリッシュタイム」を通年で実施。(◎)</p> <p>・「イングリッシュキャンプ」を実施。</p> <p>・全学年全員が英語能力試験(GTEC)技能別結果を分析した。最高グレードの生徒の割合が8.6%増加した。(◎)</p> <p>・取組み結果より指導体制、指導内容を改善した。(◎)</p> <p>エ・(生徒)「家庭学習1日90分以上」56%(H30 63%) (△)</p>
2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。</p> <p>ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを開発し、地域をフィールドとして課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。</p>	<p>ア・総合的な学習の時間の中で探究活動の素地を育成する。</p> <p>・総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を開設することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。</p> <p>・総合的な学習の時間の中で「探究」と「貢献」をキーワードとした教材を活用し、自己肯定感を高めるとともに将来の進路や生き方について考え、自ら切り開いていこうとする姿勢を身に付ける。</p> <p>・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。</p> <p>イ・中学1・2年生全員に学力推移調査及び総合学力調査(外部試験)を実施し、将来の目標を早期に発見させる。</p> <p>・中高一貫した学力向上実現のための組織を構築し、効果的に機能させる。</p> <p>・毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。</p>	<p>ア・コミュニティ・スクールのしぐみを活用し、広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を基礎に総合的な学習の時間の中で専門的な講座や講演等を実施できたか。</p> <p>・設定した目標に従い、探究型の課題研究ができ、また個人やグループのプレゼンテーションの質が高まっているか検証できたか。(ルーブリックの活用)</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度80%以上をめざす。(平成30年度81%)</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断における「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度70%をめざす。(新)</p> <p>・探究活動の発表として広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で、「とんこう地域フォーラム」を開催できたか。</p> <p>イ・学力推移調査及び総合学力調査の分析結果を保護者に公表する。</p> <p>・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携に努め、学習優先日(毎週火曜日)に中学・高校教員、高校生、地域人材(大学生等)を活用した学習支援を実施できたか。</p>	<p>ア・広域外部サポーター活用(◎) 自然科学講座「富中サイエンス」(専門家)(4回/年)を物理・化学・生物・地学の分野別に実施した。</p> <p>・探究基礎講座(大学教授)(各学年1回) トップランナー講演会(同窓会、企業等、大学、医療機関、研究機関等)(2・3年10回)</p> <p>・(生徒)「総合的な学習の時間」満足度83%(H30 81%) (◎)</p> <p>・(生徒)「将来について考える機会」満足度75%(新) (◎)</p> <p>・成果発表 学年(2月)、「学びと育ち」地域フォーラム2020(中高 3月)予定していたが、コロナウイルス感染防止のため開催を中止した。</p> <p>イ・学力分析結果について保護者説明会を実施(6月、2月) (◎)</p> <p>・未来面談(3年対象10月 大学進学指導経験教員(高校)) (◎)</p> <p>・富中未来塾(学習支援)を実施 地域人材(大学生等)12名 (◎)</p> <p>・富田林高校への進学実績(98%) (◎)</p>

府立富田林中学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア 国際交流（台湾、オーストラリア、タイ等）の充実を図る。</p> <p>イ・台湾姉妹校や、高校との連携によるオーストラリア姉妹校との交流を継続する。</p> <p>ウ・グローバル人材の育成に向けた海外研修を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <p>① 文化祭・体育祭における準備委員会を高校生と協働で活性化させる。</p> <p>② 修学旅行等を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。</p> <p>・部活動への参加を奨励し、文武両道をめざすとともに中高一貫した指導体制を整える。</p> <p>イ・中学校段階に相応しい人権及び生徒指導研修を計画・実施する。</p> <p>・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していこうとする力を育てる。中心となる活動として「メークハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。</p> <p>・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>・演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・高校との連携により、台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流を充実させる。</p> <p>イ・台湾姉妹校、また、高校との連携によりオーストラリア姉妹校との交流を充実させる。</p> <p>・修学旅行先である台湾において学校交流するとともに、異文化を理解する態度をはぐくむ。</p> <p>・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、マレーシアでグローバルリーダー育成海外研修旅行を実施し、世界的な視野を広めるとともに、多様性を理解しようとする態度をはぐくむ。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断結果における行事満足度 90%をめざす。(平成 30 年度 88%)</p> <p>・部活動加入率 90%以上(平成 30 年度 95%)を維持する。</p> <p>イ・課題に合致した人権研修の実施。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における人権教育満足度 90%(平成 30 年度 85%)をめざす。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における校則遵守率 90%(平成 30 年度 92%)を維持する。</p> <p>ウ・「メークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取り組みを実行できたか。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度 80%(平成 30 年度 72%)をめざす。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」55%以上(H30 47%)、「相談できる友達・先輩後輩等」75%以上(H30 76%)をめざす。</p> <p>・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・多くの生徒が海外の中・高校生と交流できたか(国際交流を3回以上開催する。)</p> <p>イ・台湾の姉妹校と交流ができたか。</p> <p>ウ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、マレーシアでのグローバルリーダー育成海外研修を実施できたか。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果で国際交流満足度 90%以上(平成 30 年度 89%)をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒)行事満足度 89%(H30 88%) (△)</p> <p>・部活動加入率 90%(H30 95%) (○)</p> <p>イ・(教員) LGBT 研修を実施(7月)(生徒)講演会 平和、部落問題、LGBT 講演会 (○)</p> <p>・(生徒)人権教育満足度 89%(H30 85%) 総合的な学習の時間等を活用し実社会や学校生活での課題について学習を深めるとともに、当事者の話を聞くなど、生徒の感性を磨く機会を設けた。(△)</p> <p>・(生徒)校則遵守率 93%(H30 92%) (○)</p> <p>ウ・「メークハート運動」を実施(1月)</p> <p>・高校制服制度方針について中高生徒会を中心とした自治活動を通じて見直した。(◎)</p> <p>・(生徒)「いじめ対応」満足度 87%(H30 72%) (○)</p> <p>(保護者)「いじめ対応」満足度 86%(H30 74%) (○)</p> <p>・(生徒)悩み相談満足度 54%(H30 47%) カウンセリング期間を設け実施した。(2回/年)(△)</p> <p>「相談できる友達等」83%(H30 76%) (○)</p> <p>・「演劇的な手法」(総合的な学習、文化祭) (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・国際交流受入4回(韓国・台湾・マレーシア・タイ・オーストラリア) (◎)</p> <p>イ・台湾姉妹校交流(受入10月、修学旅行11月) (○)</p> <p>ウ・グローバルリーダー育成海外研修(8月) (○)</p> <p>・(生徒)国際交流満足度 93%(H30 89%) (○)</p>
--	--	---	--	---

府立富田林中学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。 イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページに一新するとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。 (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進 イ 安全・安心な学校づくり ウ 地域貢献を推進</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌が協働できる会議システムを構築する。 ・中高一貫教育の観点で新しく再編した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。 イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校ウェブページとし、積極的に効果的な情報発信をする。 (2) ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に開きより多くの方々が学校運営に参画できるように努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。 ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、ファーストランナーによる講演を実施し、高い志をはぐくむ。 イ・教員だけでは対応できない教育課題解決のための人材(SC、SSW、識者等)を「学校支援チーム」に効果的に配置する。 ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。 ウ・南河内探究フィールドワーク、社会探究フィールドワークを実施し、地域を知るとともに地域の課題を発見させる。 ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で探究活動の成果発表の場である「とんこう地域フォーラム」を開催する。 ・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(1) ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能することができたか。 ・継続的な人材育成が「創生部」の取り組みとしてできたか。 イ 中高一貫校等の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。 (視察を2回以上実施する。) ウ 中高一貫校としてふさわしい学校Webページから、積極的に効果的な情報発信ができたか。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度90%以上を維持する。(平成30年度は93%) (2) ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方々が学校運営に参画し、十分に意見交換できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断における「学校満足度」90%以上をめざす。(平成30年度は86%) (保護者向け)学校教育自己診断における「学校満足度」90%以上を維持する。(平成30年度は93%) イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演等を実施したか。 ウ・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)を活用し、南河内探究フィールドワーク、社会探究フィールドワークを実施できたか。 ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。 ・探究活動の発表として広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で、「とんこう地域フォーラム」を開催できたか。 ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(1) ア・中高一貫教育推進委員会が機能し、中高の課題について中高協働で協議する機会を設けた。 ・学校運営や授業改善、国際交流、海外研修などにおいて、ミドルリーダーが力を発揮する取り組みが展開された。(○) イ 府外の先進校を中高の教員が訪問し、その成果を職員会議などにおいて中高全教職員で共有できた。(○) 中高一貫校等の先進校視察(5回) ウ(保護者)満足度89%(H30 93%) (2) ア・学校運営協議会、コミュニティ・スクールネットワーク協議会(学校運営協議会、広域外部サポーター)で熟議を開催(7回) (◎) ・(生徒)「学校満足度」96%(H30 86%) (保護者)「学校満足度」94%(H30 93%) (○) イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)活用教育相談研修(SSW 12月) 生徒理解研修(大学教授 7月・12月・2月) (○) ウ・広域外部サポーター活用 南河内探究(1年)、社会探究(2年)、課題提案型探究(3年)を広域外部サポーター(63団体)と連携し実施。(◎) ・生徒会連携 文化祭(幼稚園)・あいさつ運動(小学校)・生徒会サミット(中学校)(○) ・「学びと育ち」地域フォーラム2020(中高 3月)を予定していたが、コロナウイルス感染防止のため開催を中止した。 ・地域ボランティア 石川大清掃(3月)を予定していたが、コロナウイルス感染防止のため開催を中止した。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。 ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底 イ 校務の見直しによる業務の軽減化 ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。</p>	<p>(1) ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日の職員朝礼でのアナウンス及び17時以降における退勤の職員間での声掛けを励行する。 イ・中高協働で実施できる部活動や行事などの取り組みの推進、各種研修などの実施時期や実施時間帯を見直すなど、校務を見直すことで業務の軽減化を図る。 ウ・教育課題解決のための人材(SC、SSW、学生サポーター等)を「学校支援チーム」として効果的に配置することにより教職員の負担軽減をはかる。</p>	<p>(1) ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。 イ・校務の見直しを図ったか。 中高協働で実施できる部活動5部以上をめざす。 ウ・外部人材を適切に配置したか。 ア、イ、ウとも、(教員向け)学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度(平成30年度71%)75%以上をめざす。</p>	<p>(1) ア・ノークラブデー(週2回)ノー残業デー(金曜)職員朝礼などでも適宜、ノー残業デー等を周知し、時間外勤務の縮減に努めた。(○) イ・校務の見直し(○) 全教職員で学期制、時間外電話対応、探究活動、グローバル教育等を見直した。中高協働実施の部活動(13部) ウ・外部人材を適切に配置したか。 SC(週1回)、SSW(月2回)、学生(年40回)を教育相談、関係諸機関連携、いじめ対策委員会等において効果的に活用した。(○) (教員)勤務満足度56%(H30 71%) ・本校における業務については、中高一貫業務に係る特別な業務が多く、教職員数が少ないことへの不満が大きな課題である。(△)</p>